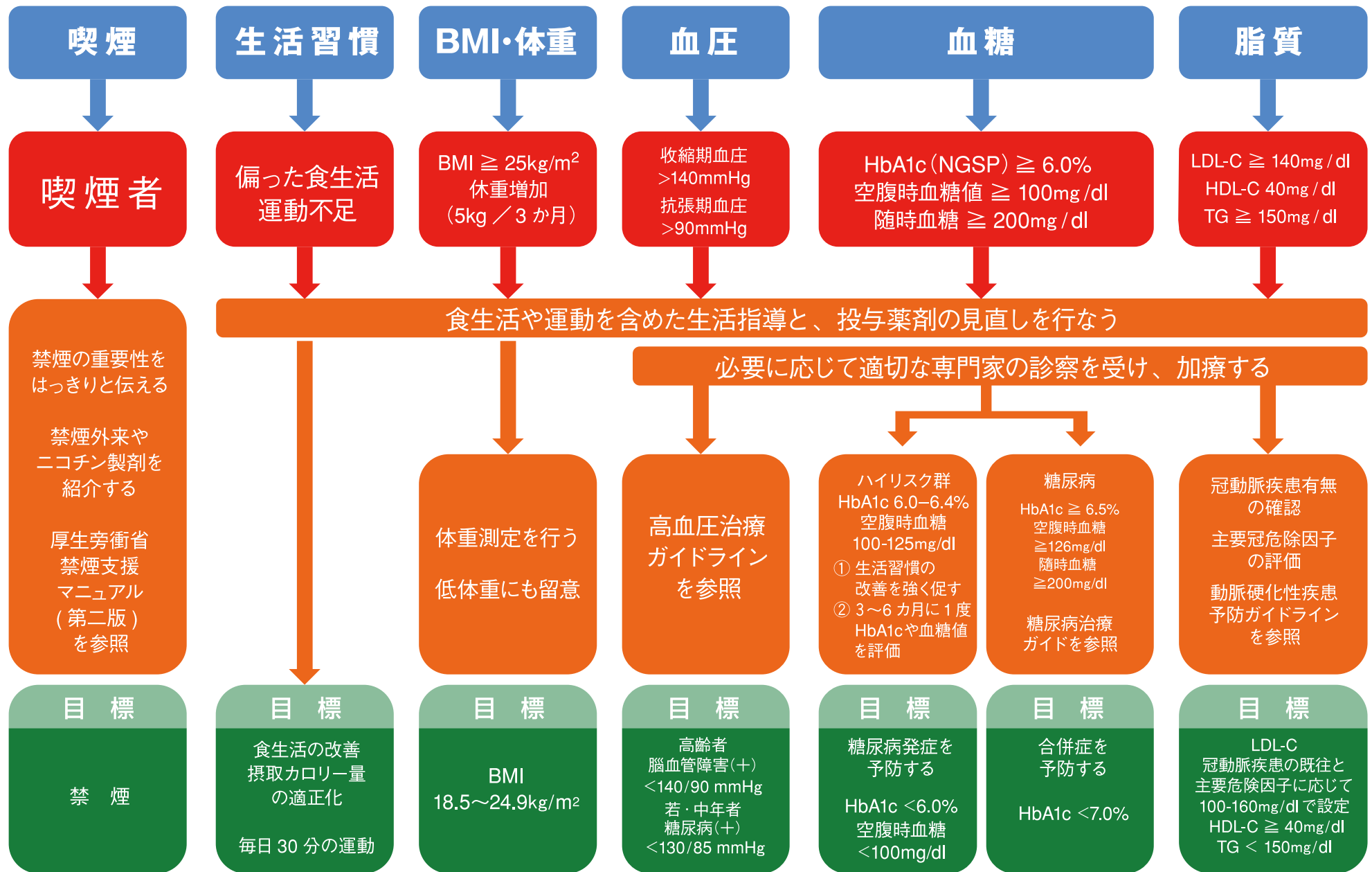


抗精神病薬服用中の身体ケア

精神病症状の治療を受ける若者の身体ケア向上をめざす
HeAL (Healthy Active Lives) ガイドライン 日本版 2013



抗精神病薬を 服用中の方に 適切な 身体ケアを!

精神疾患は治療が長期にわたることも多く、生活習慣や身体疾患の合併は生活の質を大きく左右します。

そこで精神科医と内科医が連携して積極的に身体疾患のモニタリングと治療を行う必要があります。

内科医は主に身体的治療の評価を行い、精神科医は抗精神病薬の見直しを検討します。

抗精神病薬を処方時に必要な診察項目

新たな抗精神病薬の開始時および3カ月後を目安に、身体的評価を行う。

投与初期の急激な体重増加は、長期的にも重度の体重増加の予測因子であるため、新たな抗精神病薬の服用開始から8週間は、週1~2回程度の体重測定が望ましい。

それ以降は身体的不調がなければ年1度を目安に精査を行う。必要な際には適切な治療を行い、必要に応じて約3ヶ月ごとに再評価する。

病歴聴取

- ・過去の急激な体重増加（3ヶ月以内 5kg 増）
- ・喫煙、運動、食生活、定期健診の把握
- ・妊娠歴がある場合は妊娠糖尿病の既往
- ・糖尿病、肥満、心血管疾患 OD 家族歴

理学所見のポイント：体重、BMI、血圧

血液検査

血算、血糖値、HbA1C、TChol、HDL-C、LDL-C、TG、肝機能(AST、ALT)、腎機能(BUN、Cr)、電解質(Na、K、Cl)

心電図

心血管系疾患の既往や家族歴がある場合、不整脈発生リスクの高い薬物（抗精神病薬、抗うつ薬、抗菌薬など、添付文書参照）を併用している場合は、定期的に心電図検査を行う。

生活習慣の見直し

栄養指導:

- ・カロリー摂取量を減らして体重増加を防ぐ。
- ・ファーストフード・ジャンクフードを控える。
- ・ジュース、ソフトドリンク等の飲料を控える。
- ・食物繊維の摂取を増やす。

運動

- ・歩行又はそれと同等以上の強度の身体活動を毎日 30 分行う。
- ・あるいは、息が弾み汗をかく程度の運動を1週間に合計 60 分行う。

3カ月後に目標が達成されない場合、次の薬物療法導入を検討する

身体疾患の薬物療法（内科医に紹介し、併診とすることが望ましい）

- ・高血圧：日本高血圧学会「高血圧治療ガイドライン」参照
- ・脂質異常症：日本動脈硬化学会「動脈硬化性疾患予防ガイドライン」参照
- ・糖尿病：日本糖尿病学会「糖尿病治療ガイド」参照

抗精神病薬の見直し 主として精神科医が担当する

以下のような場合は優先的に取り組む。

- ・抗精神病薬開始後の急激な体重増加(例:3ヶ月以内に 5kg 増加)
- ・急速な脂質、血圧、血糖の異常の進行(3ヶ月以内)

精神科医は抗精神病薬がこれらの原因であるかを判断し、疑いがあれば、より副作用が少ない処方への変更を検討する。

- ・まず処方量が適切か検討する。多剤併用は合理的な理由がなければ行うべきではない。
- ・抗精神病薬の変更には慎重な臨床判断が必要である。薬剤変更による利益と精神症状の再発リスクを勘案して判断する。
- ・1年以上の長期にわたって同じ薬剤を内服していた場合、薬剤変更により利益を得ることは一般的に少ない。
- ・臨床的判断や患者の希望により薬剤の変更が行えない場合、その後も適切なモニタリングと治療内容の検討を継続する。

作成：東京大学医学部精神医学教室

原著者 Jackie Curtis 氏(オーストラリア)、David Shiers 氏(英国)の許諾を得ています